



1964年（昭和39年）、オーストリアのインスブルック冬季五輪視察団の一人だった高橋清吉町長がサンモリッツ市長の元を訪れ、姉妹都市提携を申し入れたことから、両都市の友好関係は始まりました。

サンモリッツ市長らは、俱知安町側が差し出したハンカチにその場でサインし、提携を快諾しました。



▲市長らがサインしたハンカチ

特集

姉妹都市 サンモリッツと 俱知安をつなぐ友好の絆



2014年（平成26年）、姉妹都市提携50周年を記念し、サンモリッツ市から市長ら6名の公式訪問団が来町しました

5月27日、役場前に到着した訪問団は、くっちゃん羊蹄太鼓保存会の太鼓の演奏によって迎えられました。

その後は俱知安風土館と小川原脩記念美術館を訪れ、交流の証としてサンモリッツから贈られた記念品などの展示をはじめ、館内の作品一つ一つを楽しみました。

記念式典では、未来に向けて友好の絆をより一層深めるための交流事業を推進することを誓い、共同宣言書へ署名しました。

姉妹都市提携50周年の記念品として、俱知安町からはアイヌ文様が飾られたタペストリー、サンモリッツ市からはサンモリッツ市のシンボルである太陽が飾られた盾がそれぞれ贈られました。

2014 姉妹都市提携 50 周年

レセプション会場では、豪雪うどんやお寿司などの日本の食べ物が振る舞われたほか、もちつきが行われ、サンモリッツ市長をはじめ、訪問団の方々をはじめ、訪問団の皆さまは初めてのもちつきを体験。会場は大いに盛り上がりしました。

翌日はひらふ地区の視察や町内の散策を行い、街中で町民とふれあう場面もありました。また、日本文化体験として、居合・剣道の見学や、着物の着付け、書道、茶道などの体験を行いました。

最終日には町内の小学校を訪ね、西小学校権山分校では授業を見学、その後は児童がよさこいを披露し、市長らは興味深く見入っていました。西小学校では外国語活動に参加し、英語で交流。子どもたちにとっても貴重な経験となりました。



1986年（昭和61年）、サンモリッツ市から初の公式訪問団が来町しました。6月29日に文化福祉センターで開かれた「ふれあいの夕べ」（歓迎式・音楽交歓会）では、サンモリッツ市長夫婦ら9名が、町民からのあたたかい歓迎を受けました。

1986 初の公式訪問団が来町

るアルプホルンの演奏などが披露され、互いの国の音楽を通じて親睦を深めました。また、訪問記念として、俱知安町とサンモリッツ市の両首長が俱知安町役場前庭にエゾヤマザクラの植樹を行いました。このとき植えられた桜の木は、役場新庁舎建設に伴って植え替えが行われ、現在、町内どんぐり公園に植えられています。



1988年（昭和63年）、俱知安町から初の公式訪問団がサンモリッツ市を訪問しました。10月2日、宮下雄一郎町長ら26名の訪問団は、市内に到着すると市役所庁舎前広場に案内され、音楽隊によるマーチの演奏と、約100名の一般市民に迎えられました。

1988 俱知安町から公式訪問

た日本側の女性たちには花束が贈られました。スイス音楽が流れる中、集まった市民にもワインが配られ、市長らとの再会と両都市のますますの友好を祝して乾杯しました。翌日、サンモリッツ市長自らの案内のもと、市内の小中学校や市役所庁舎、リゾート地や別荘地などの視察を行いました。その夜開かれた晩さん会でも華やかで心のこもった歓迎を受け、交流を楽しみました。



2019年（令和元年）、G20観光大臣会合に合わせて、サンモリッツ市長らスイス代表団を招待しました

2019年（令和元年）、俱知安町ではG20観光大臣会合が開催されました。

サンモリッツ市のあるスイスはG20非加盟国であることから、俱知安町が観光庁に依頼しスイスを招待。10月26日、スイスからサンモリッツ市長、東京のスイス大使館から駐日大使などが来町しました。

市長ら代表団は、町内の酒蔵「二世古酒造」を視察し、酒造りの見学と試飲を行いました。その後は雪ん子館で地元の小中学生で

2019 スイス代表団を俱知安町に招待

構成されるMt.Youtei Jr.JAZZ SCHOOLの子どもたちが代表団を出迎え、スイス民謡など数曲を演奏し、スイス代表団を楽しませました。今回の交流を記念して、俱知安町からサンモリッツ市のイエニ市長、スイス連邦のヤコブ代表、駐日スイス大使館のパロ駐日大使の3名それぞれに、町内在住の画家・徳丸滋氏の絵画が贈られました。サンモリッツ市長からは、友好の証として市章入りのスキーが贈られました。



～ 青少年交流事業 ～

俱知安町とサンモリッツ市が姉妹都市になってから、今年で57年となります。これまでに、訪問団の行き来やスポーツでの交流、贈り物のやりとりなど、いろいろな交流を行ってきましたが、その中でも力を入れてきたのが子どもたち（留学生）の交流です。

事業が始まった1996年（平成8年）以降、俱知安町から24名、サンモリッツ市から18名の中高生が留学を経験しています。次ページでは、2018、19年度の交換留学に参加した方々の体験談や、未来の留学生となる子どもたちへのメッセージを紹介します。

青少年交流事業に参加して

旅行をしたり、異なる文化を学んだり、新しい人と出会うのが好きで、参加を決めました。

倶知安の学生たちは、私たちとの出会いを喜び、友達のように親切にしてくれました。同じ言語を話さなくても、共通点がなくても、コミュニケーションを取ることで分かり合うことができ、友達になれると分かりました。関わってくれた人たちにはとても感謝しています。いつかまた再会したいです。

未来の留学生へメッセージ

交流することを恐れず、楽しんで、できるだけ多くのことを学んでください。そして、全ての小さな瞬間、全ての楽しい瞬間を楽しんでください。その経験は誰でも手に入れられるものではなく、一生に一度の機会であることを忘れないでほしいです。



サ
ラ
Sara
Augusto Botelho さん

青少年交流事業に参加して

日本文化に深く触れる体験はなかなかできないと思い、すぐに参加を決めました。

倶知安の学生たちと交流し、国や文化が違って通じ合えるということが分かりました。たくさんの新しい知識と発見があり、異なる文化や生き方についての理解が深まりました。

倶知安の3人の学生をはじめ、ホストファミリー、私たちが温かく親切に迎えてくれた人たちに心から感謝します。

未来の留学生へメッセージ

自分の知らない国でたくさんの経験ができる機会があるなら、思いきって、異なる文化に飛び込んでみてください。

新しい体験の中で、愛に溢れる素敵な人たちに会えるでしょう。



コ
リン
Colin Masely さん

青少年交流事業に参加して

倶知安で出会った人たちは、とても親切で、いつも笑顔で、私たちが温かく迎えてくれました。また、町のあちこちにサンモリッツにまつわるものを見つけ、姉妹都市を大切にしてくれているということに感激しました。ホストファミリーとは、言葉が通じなくても、お互いを理解することができ、心が通じ合ったことに感動しました。

3人の学生と一緒に過ごした時間はそれほど長くありませんでしたが、特別な関係になりました。いつかまた再会しましょう。

未来の留学生へメッセージ

怖がらずに自分を信じ、勇気を出すことが大切で、何事にも心を開けば、この交流を思う存分楽しむことができます。

大変なこともあります、それ以上に価値のある体験ができると思います。



ソ
フィア
Sofia Severino さん



青少年交流事業を経験して

青少年交流事業に参加して

とにかくなんでもやってみること、経験することの大切さを学びました。楽しいことも悩むこともありましたが、すべていい経験、素敵な思い出となっています。

サンモリッツの学生たちはとても温かく親切で、すぐに打ち解けることができました。3人の学生やホストファミリーとは今でも繋がりますが、いつかまた直接会って、感謝を伝えたいです。

未来の留学生へメッセージ

こんなに素晴らしいチャンスはないので、少しでも行ってみたいと思うなら絶対に行くべきです。見たことのない、経験したことのない世界がたくさん待っています！



ゆ
い
佐藤 優衣 さん

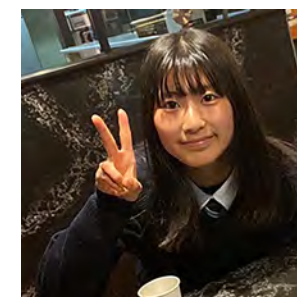
青少年交流事業に参加して

サンモリッツで過ごす中で、いろいろな人がいるんだと、視野が広がりました。

学校訪問では現地の生徒たちと一緒に料理やバレーボールをして交流しました。ドイツ語が分からず会話は通じなくとも、スポーツを通じて繋がることができ、スポーツは世界共通であると実感しました。

未来の留学生へメッセージ

英語に自信がなくても、積極的に話すことで、交流が楽しくなると思います！



め
り
竹山 芽里 さん

今後もなお、先の見通しの立たない状況が続いていますが、この特集を通じて、これまでの交流と友好の歴史を振り返り、姉妹都市サンモリッツを少しでも身近に感じてもらえたら嬉しいです。

約9000キロ離れた2つのまちの、2枚のハンカチから始まった姉妹都市交流は、2024年（令和6年）に60周年を迎えます。

これまで築いてきた友好の歴史は、この先も途絶えさせることなく、大切に未来へ繋いでいきます。

そして、以前のように倶知安とサンモリッツの子どもたちが顔を合わせて交流する、その日が来ることを楽しみにしています。

新型コロナウイルスの流行・感染拡大に伴って、海外渡航が制限され、2019年（令和元年）を最後に、青少年交流事業は一時中断となりました。

友好の歴史を
未来につないでいく